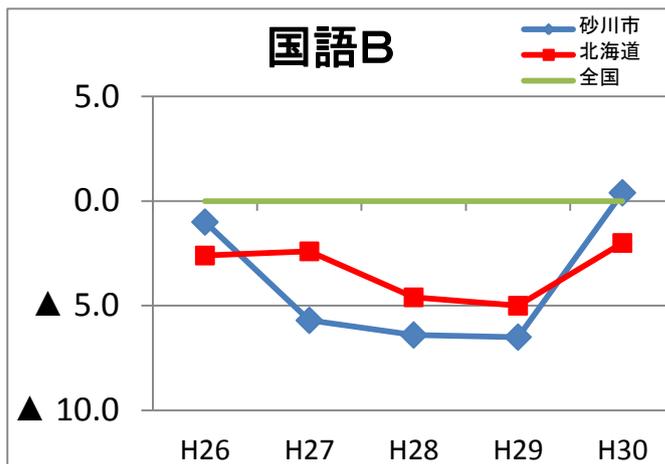
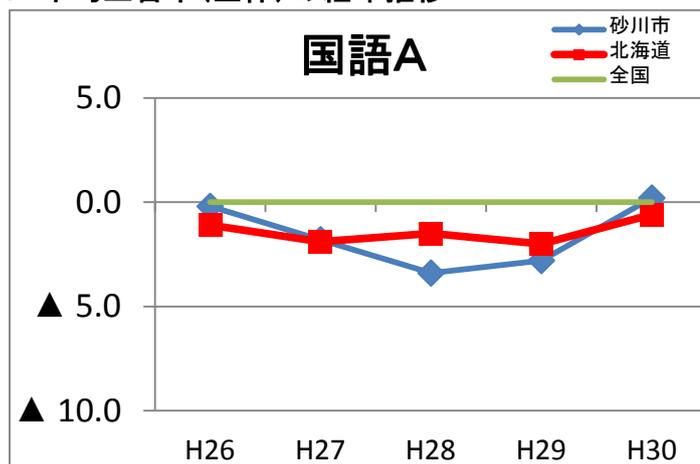
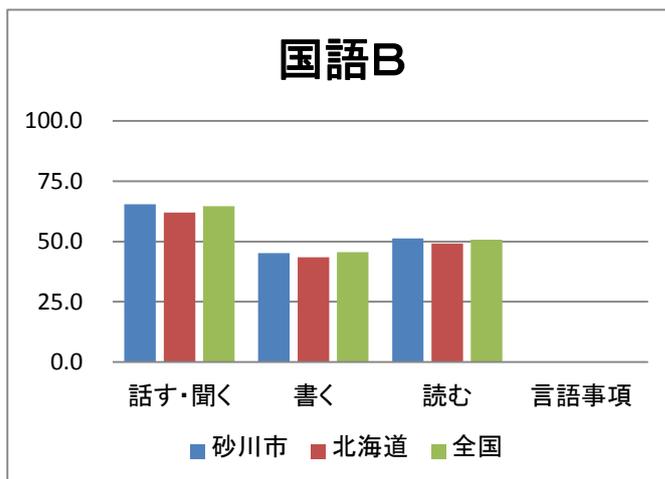
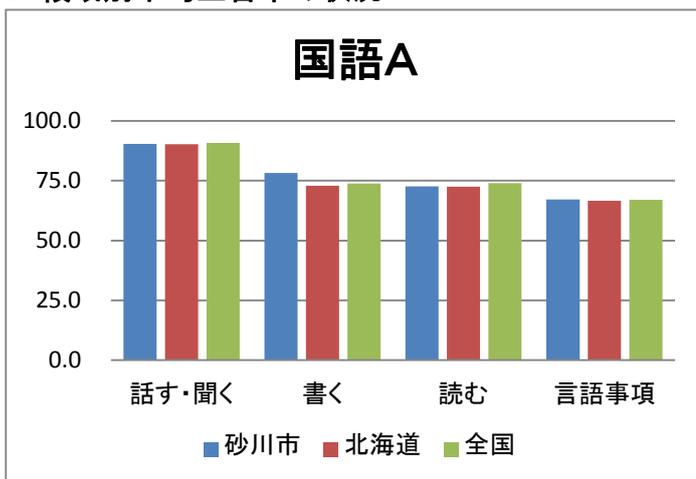


小学校国語（学校数：5校 児童数：115名）

1 平均正答率(全体)の経年推移



2 領域別平均正答率の状況



3 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童(努力を要する児童)の割合

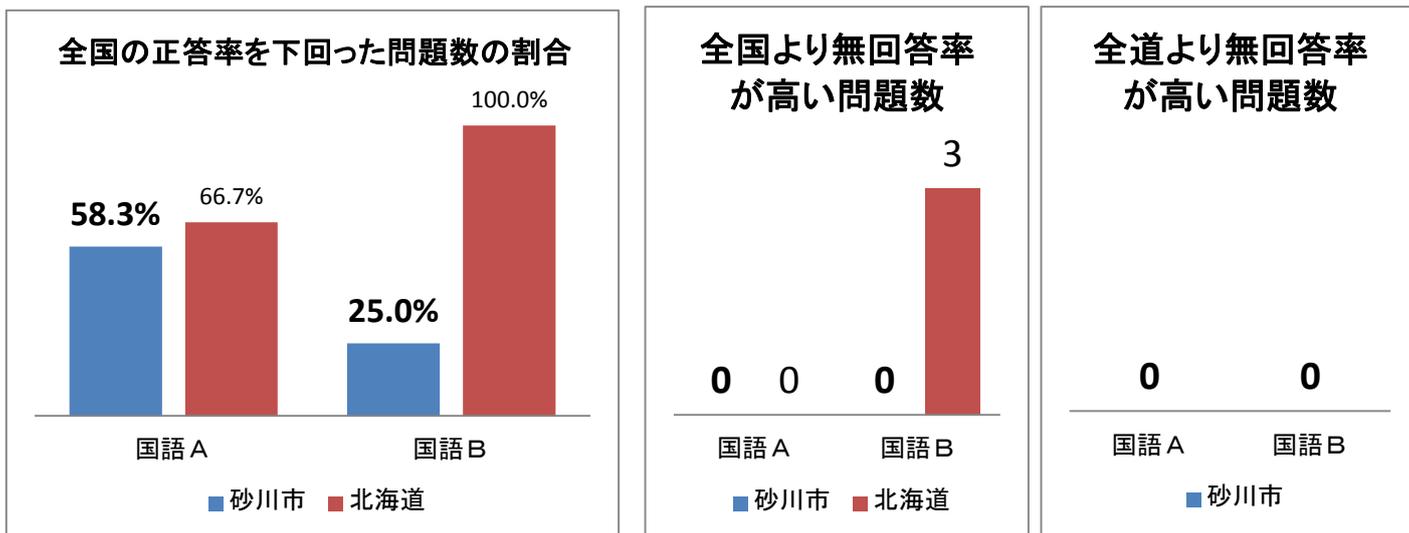
◎ 国語A

	H28			H29			H30		
	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国
割合	20.2%	23.9%	21.3%	27.2%	24.1%	22.3	17.4%	22.2%	22.0%
正答数	15問中8問以下			15問中9問以下			12問中6問以下		
全国との差	1.1少ない			4.9多い			4.6少ない		

◎ 国語B

	H28			H29			H30		
	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国
割合	38.0%	32.6%	29.8%	32.6%	24.8%	23.2%	13.9%	20.4%	18.6%
正答数	10問中4問以下			9問中3問以下			8問中2問以下		
全国との差	8.2多い			9.4多い			4.7少ない		

4 A問題とB問題における正答率と無回答率の差異の状況



5 分析

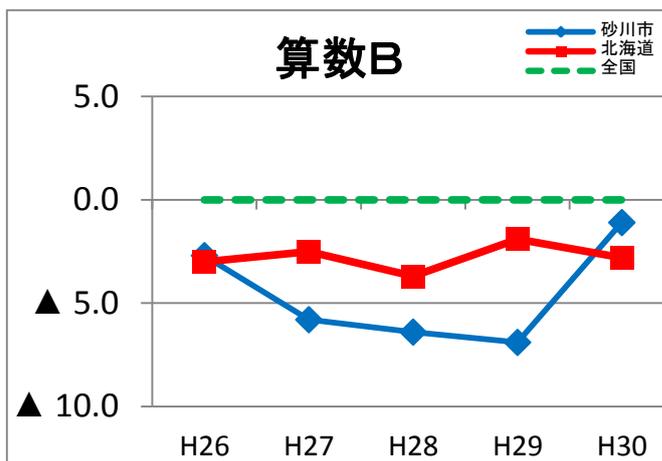
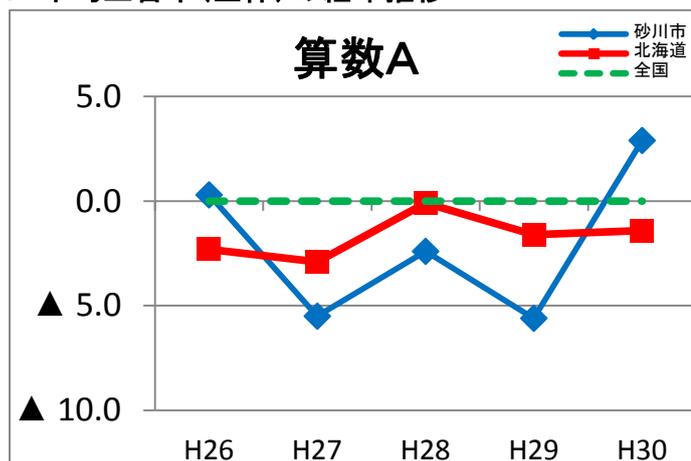
- 国語A、国語Bともに、若干ではあるが全国平均を上回った。また、無回答率も全問で全国平均を下回った。
- 国語Aでは、「自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える」問題で全国平均を5ポイント以上上回った。一方で、「相手や場面に応じて適切に敬語を使う」問題では、全国平均を5ポイント以上下回った。また、「文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く」「目的に応じて必要な情報を捉える」についても、全国平均をやや下回った。「漢字を文の中で正しく使う」問題では、全国平均を上回った設問もあったが、下回った設問もあった。
- 国語Bでは「計画的に話し合うために、司会の役割について捉える」問題では全国平均を5ポイント以上上回った。また、「目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える」問題も、全国平均をやや上回った。一方で、「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く」問題は全国平均をやや下回った。

6 授業改善の視点

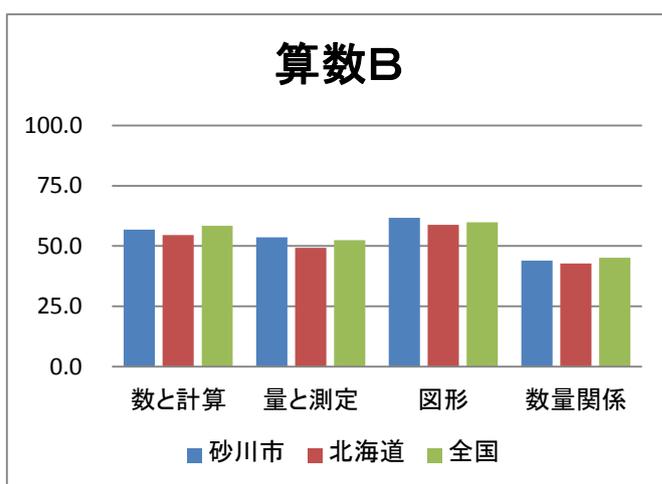
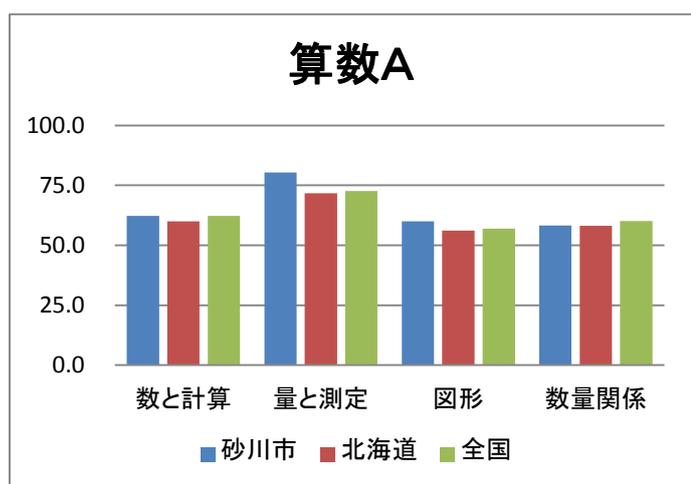
- 漢字・語句などは、知識として身につけるだけでなく、文の中で正しく使うことができるようにする授業の改善。
- ノート指導の充実を図り、文章を正しく書いたり、内容の中心を明確にして書いたりする授業の実践。
- 国語の教科に限らず、相手や場面に応じて適切に敬語を使う授業の実践。

小学校算数（学校数：5校 児童数：115名）

1 平均正答率(全体)の経年推移



2 領域別平均正答率の状況



3 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童(努力を要する児童)の割合

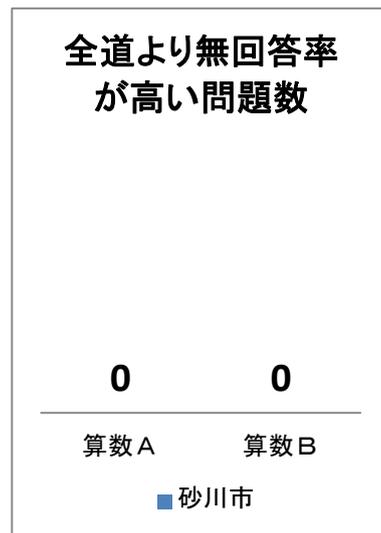
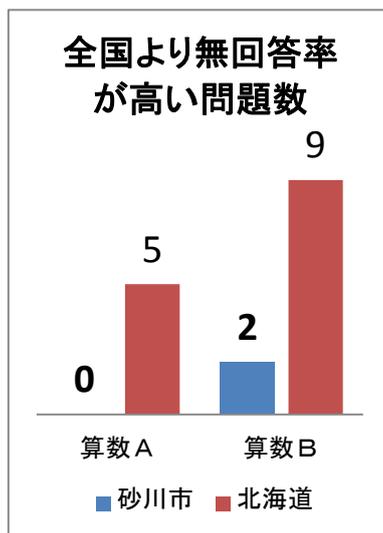
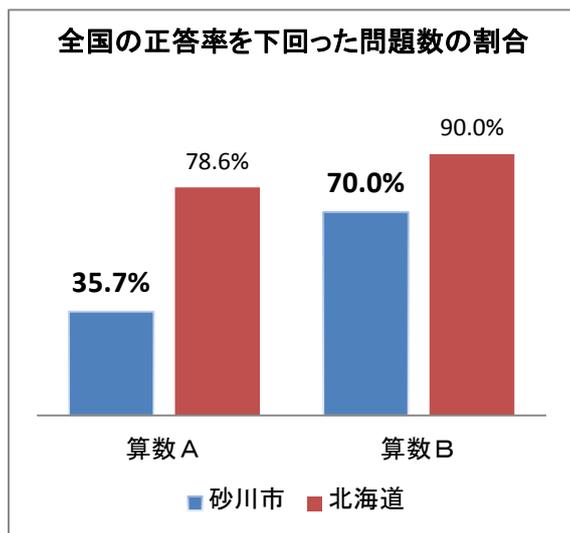
◎ 算数A

	H28			H29			H30		
	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国
割合	28.2%	28.1%	24.2%	38.9%	29.5%	27.3%	18.2%	25.7%	24.3%
正答数	16問中10問以下			15問中10問以下			14問中6問以下		
全国との差	4.0多い			11.6多い			6.1少ない		

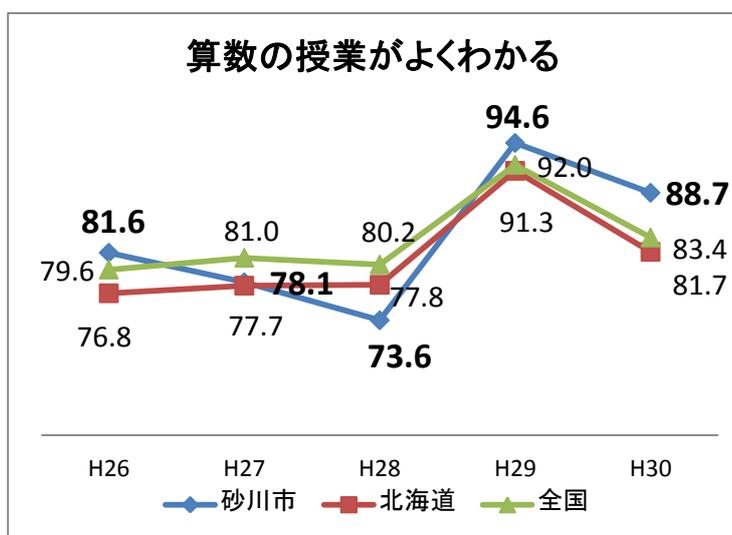
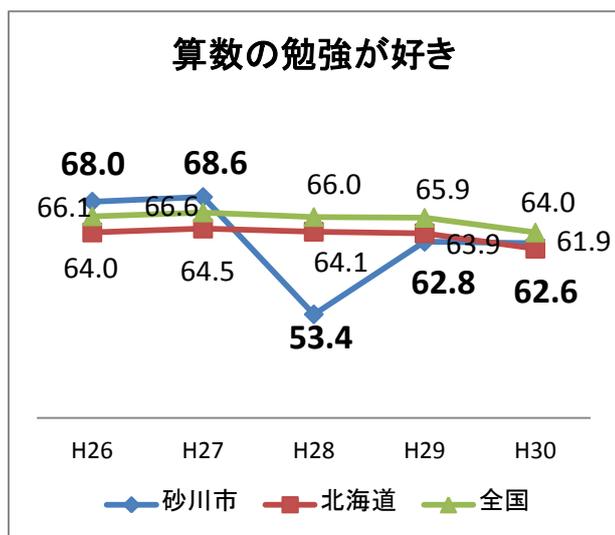
◎ 算数B

	H28			H29			H30		
	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国
割合	28.5%	23.6%	20.0%	46.5%	33.7%	30.5%	19.1%	22.2%	19.6%
正答数	13問中3問以下			11問中3問以下			10問中2問以下		
全国との差	8.5多い			16.0多い			0.5少ない		

4 A問題とB問題における正答率と無回答率の差異の状況



5 算数の授業に関する意識(質問紙調査より)



6 分析

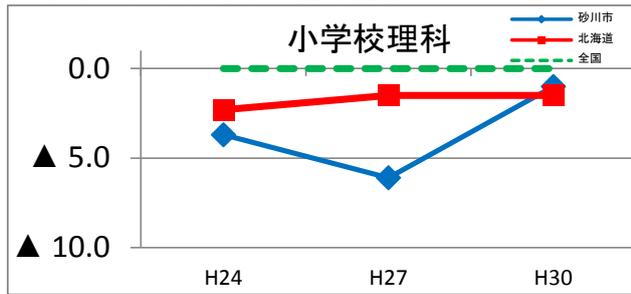
- 算数Aは全国平均を上回った。算数Bは全道平均は上回ったが、全国平均は下回った。
- 無回答率では、算数Aは全ての問題で全国平均より低かった。
- 算数Aでは、「分度器を用いて 180° よりも大きい角の大きさを求める」「単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味」「円周率の意味」の問題で、全国平均を10ポイント以上上回った。一方で、「除法で表すことができる二つの数量の関係」の問題は全国平均を5ポイント以上下回った。また、「百分率を求める」問題は全国平均をやや下回った。
- 算数Bでは、「条件に合う図形を見いだす」「理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述する」「示された考え方を解釈し、ほかの数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断する」問題で、全国平均をやや上回った。一方で、「規則性を解釈し、それを基に条件に合うものを判断する」問題では全国平均を10ポイント以上下回った。また、「棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを適切に判断する」「示された考え方を解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述する」問題で全国平均をやや下回った。

7 授業改善の視点

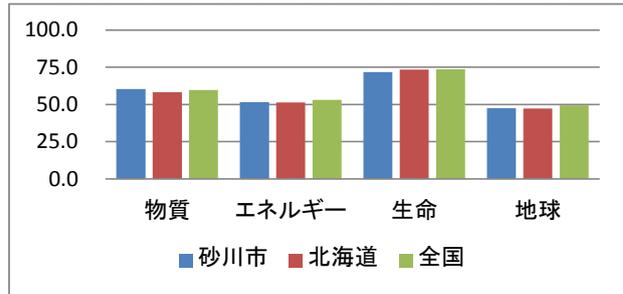
- 課題を明確にして見通しをもたせるとともに、授業を振り返る活動を計画的に取り入れた授業の実践。
- 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため、少人数や習熟度別による指導を取り入れた授業の実践。
- 思考力を伸ばすため、主体的・対話的な深い学びの授業の実践。

小学校理科（学校数：5校 児童数：115名）

1 平均正答率(全体)の経年推移



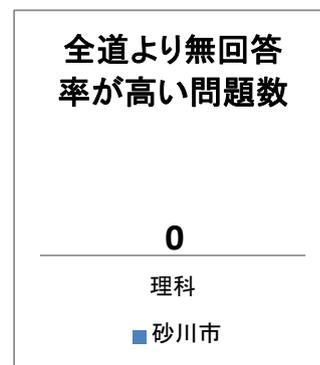
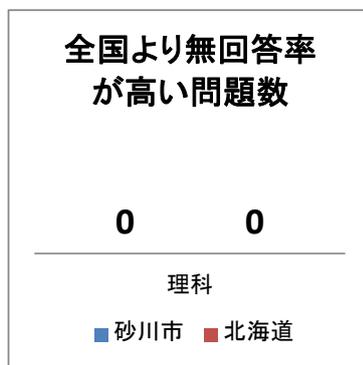
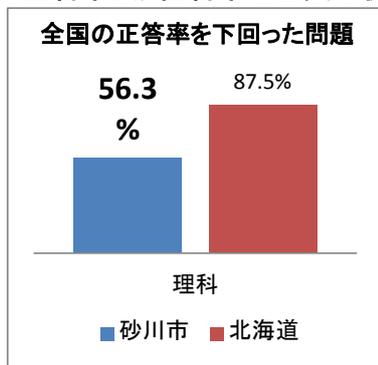
2 平成30年度における領域別平均正答率の状況



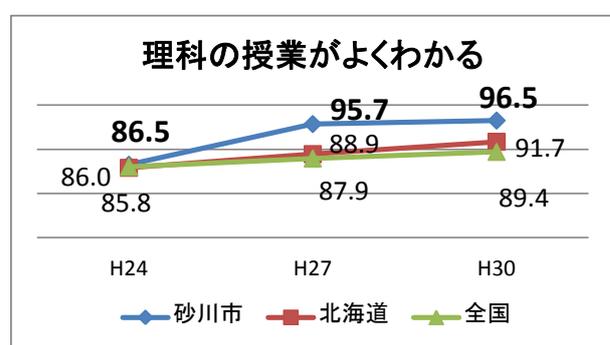
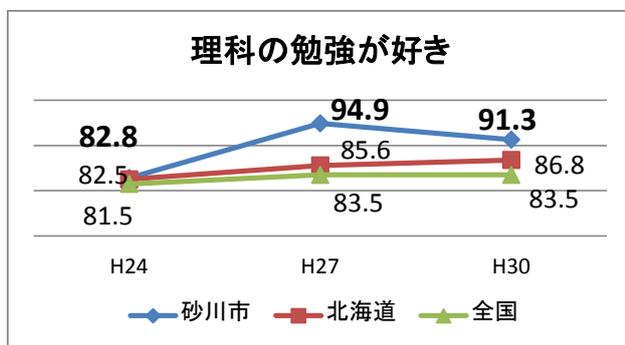
3 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合(努力を要する児童)の比較

	H24			H27			H30		
	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国
割合	30.7%	29.1%	25.5%	37.2%	29.3%	27.4%	27.0%	28.3%	26.3%
正答数	24問中11問以下			24問中11問以下			16問中7問以下		
全国との差	5.2多い			9.8多い			0.7多い		

4 正答率と無回答率の差異の状況



5 理科の授業に関する意識(質問紙調査より)



6 分析

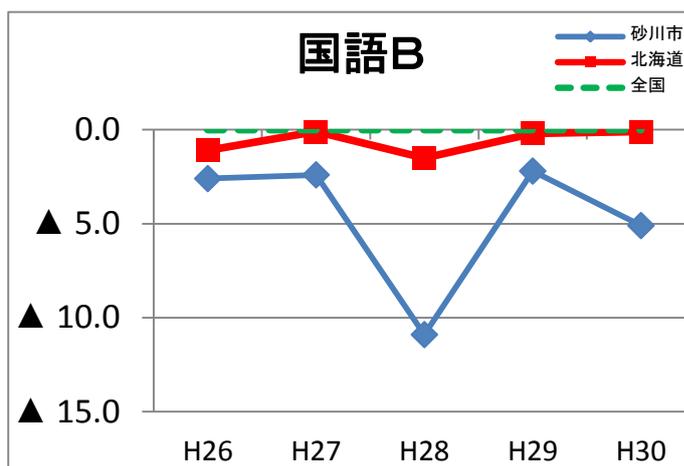
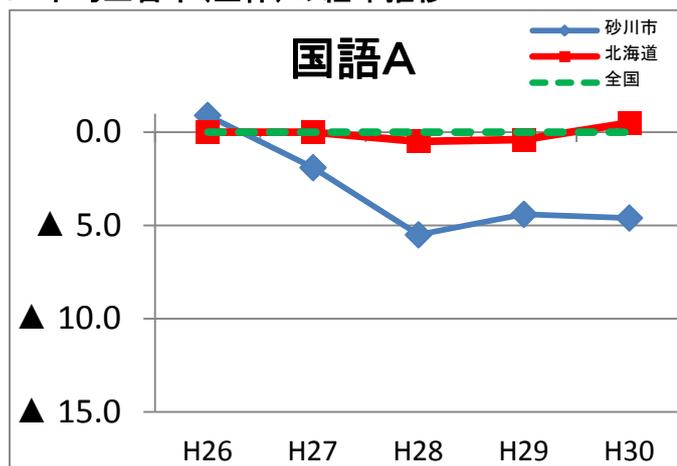
- 理科は、全道平均を上回ったが、全国平均は下回った。全国より無回答率が高い問題がなかった。
- 前回との比較では、全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合が大きく改善した。
- 「人の腕が曲がる仕組みを模型に適用する」「調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析する」「実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述する」問題で、全国平均より5ポイント以上低かった。

7 授業改善の視点

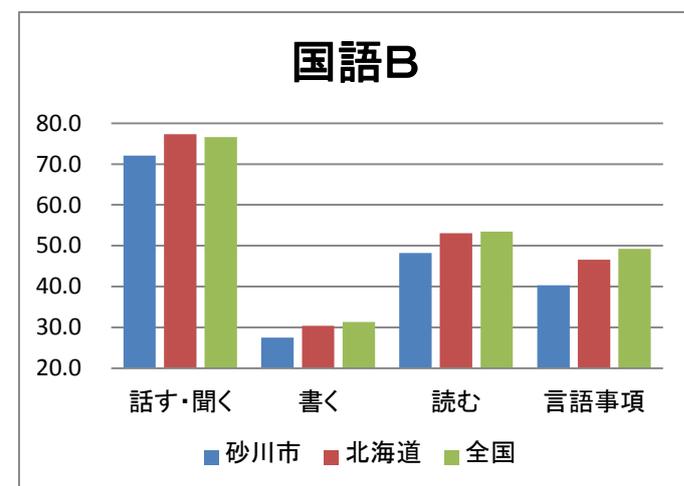
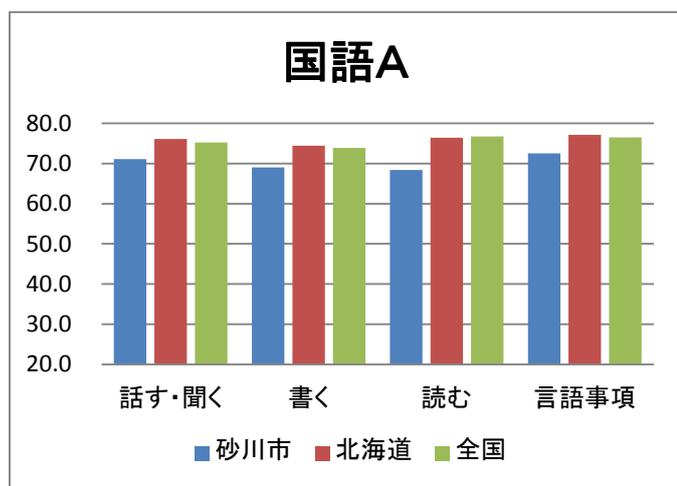
- 観察・実験の結果について、知識・理解に加えて、視点を整理し考察する学習活動の工夫。
- 理科の「見方や考え方」を働かせながら、知識や技能を習得したり、思考・判断・表現する場面のある授業の実践。

中学校国語（学校数：2校 生徒数：129名）

1 平均正答率(全体)の経年推移



2 領域別平均正答率の状況



3 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒(努力を要する生徒)の割合

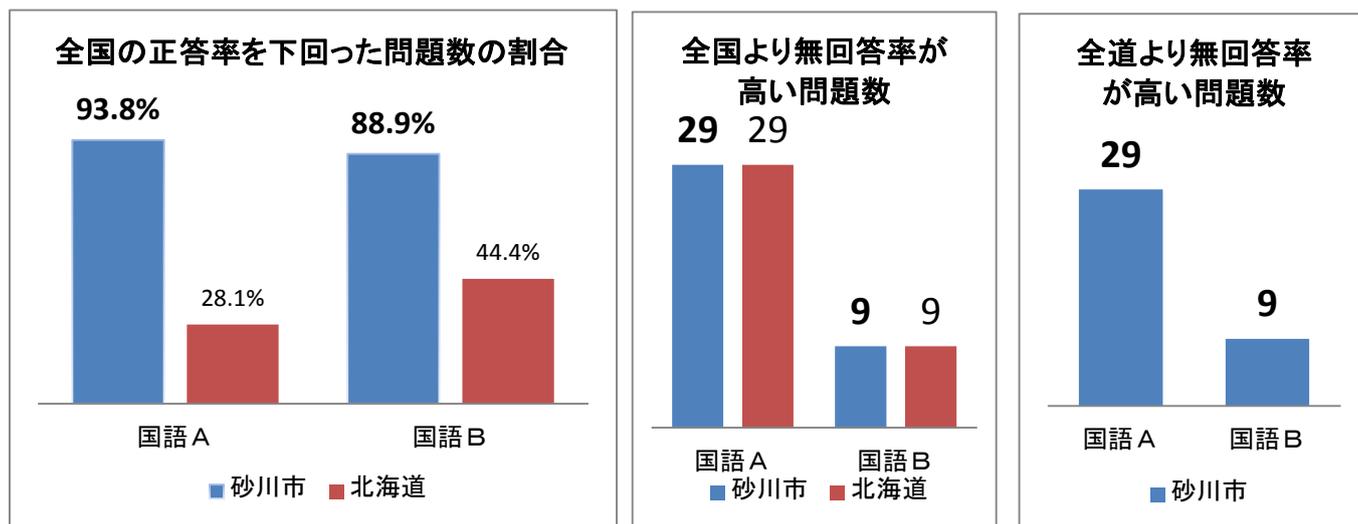
◎ 国語A

	H28			H29			H30		
	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国
割合	39.1%	28.3%	26.5%	32.8%	25.1%	23.2%	30.7%	22.2%	23.2%
正答数	33問中22問以下			32問中21問以下			32問中21問以下		
全国との差	12.6多い			9.6多い			7.5多い		

◎ 国語B

	H28			H29			H30		
	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国
割合	43.7%	27.8%	25.4%	30.6%	28.5%	27.8%	26.4%	17.3%	17.5%
正答数	9問中4問以下			9問中5問以下			9問中3問以下		
全国との差	18.3多い			2.8多い			8.9多い		

4 A問題とB問題における正答率と無回答率の差異の状況



5 分析

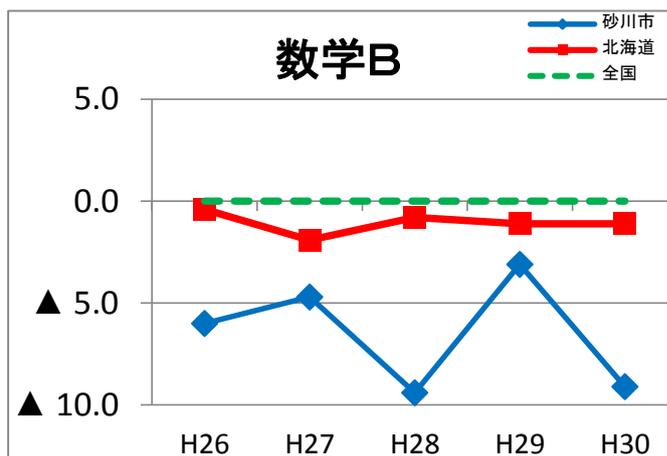
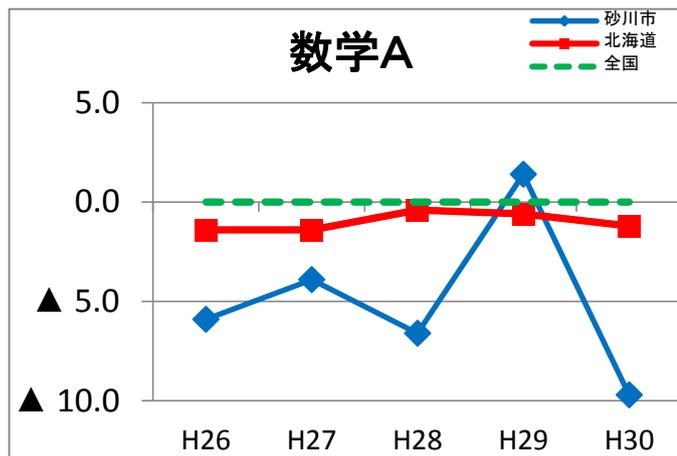
- 国語 A、国語 Bともに全国平均を下回り、国語 Bでは昨年度より差が広がった。
- 下位の生徒の割合は全国より高いが、年々改善傾向にある。
- 国語 Aでは、「適切な敬語を選択する」などの「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」問題で全国平均を10ポイント以上下回った。また、「伝えたい事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように書く」「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」「段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立つ」の問題で全国平均を5ポイント以上下回るなど、特に、「書く」「読む」で正答率の低い問題が多かった。
- 国語 Bでも、「文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える」問題で全国平均を10ポイント以上下回り、「話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する」「相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く」問題で全国平均を5ポイント以上下回るなど、「書く」「読む」に加えて「聞く」で正答率が低かった。

6 授業改善の視点

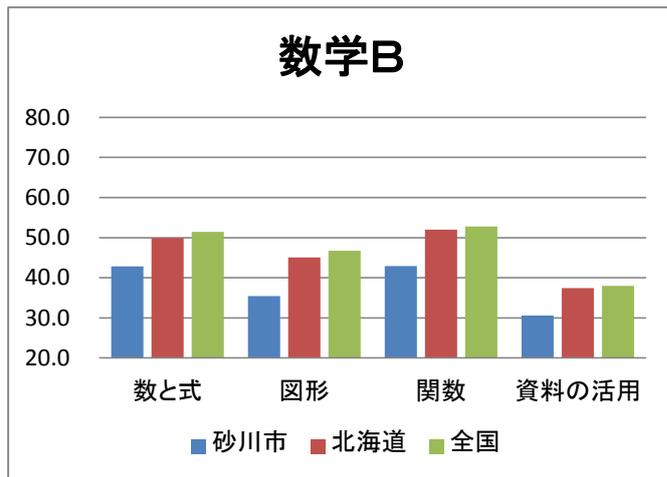
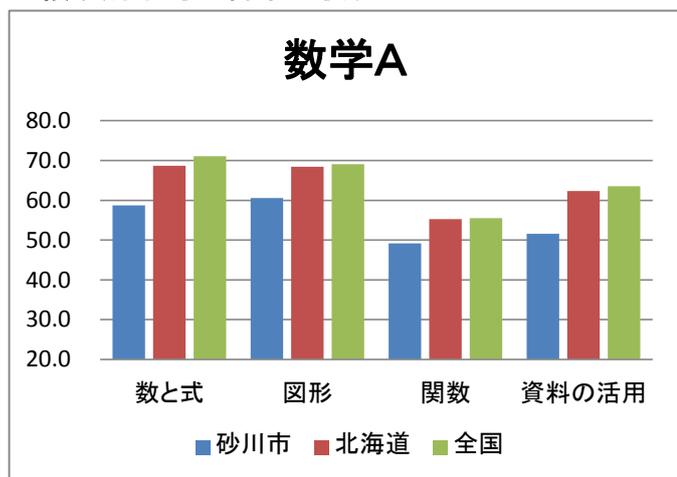
- 漢字・語句など、基礎的・基本的な事項を確実に定着させる授業や様々な文章を読む習慣を付ける授業の実践。
- 文章を書く指導を多くしたり、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく伝えたりする指導を取り入れた授業の実践。
- 国語の教科に限らず、相手や場面に応じて適切に敬語を使う授業の実践。

中学校数学（学校数：2校 生徒数：129名）

1 平均正答率(全体)の経年推移



2 領域別平均正答率の状況



3 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒(努力を要する生徒)の割合

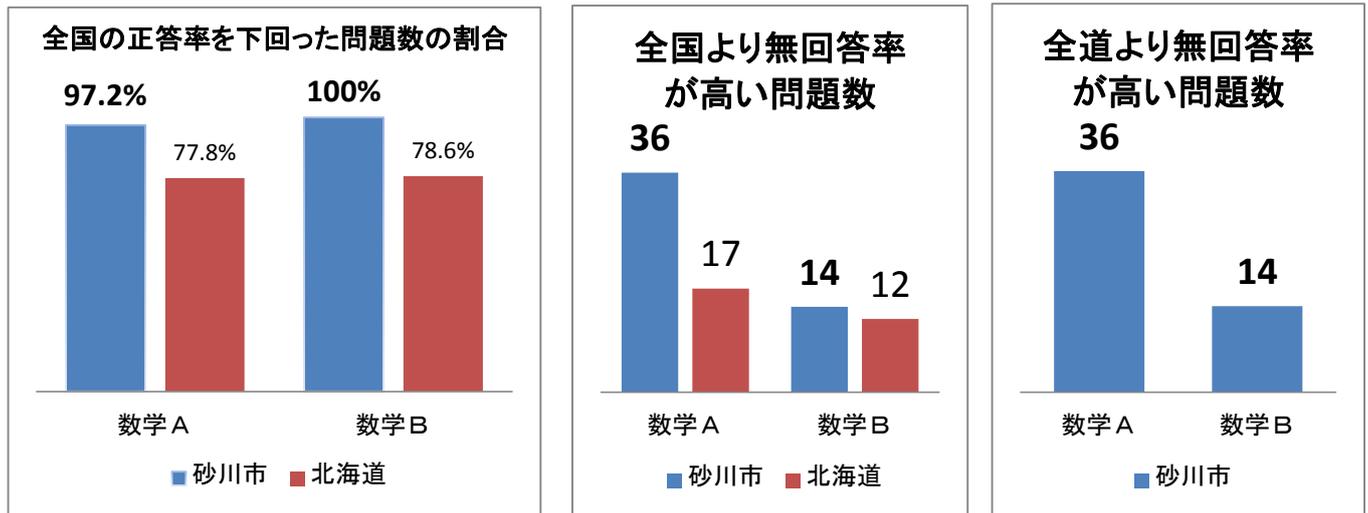
◎ 数学A

	H28			H29			H30		
	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国
割合	37.9%	26.8%	25.1%	24.1%	27.3%	25.2%	36.0%	25.7%	23.3%
正答数	36問中16問以下			36問中17問以下			36問中17問以下		
全国との差	12.8多い			1.1少ない			12.7多い		

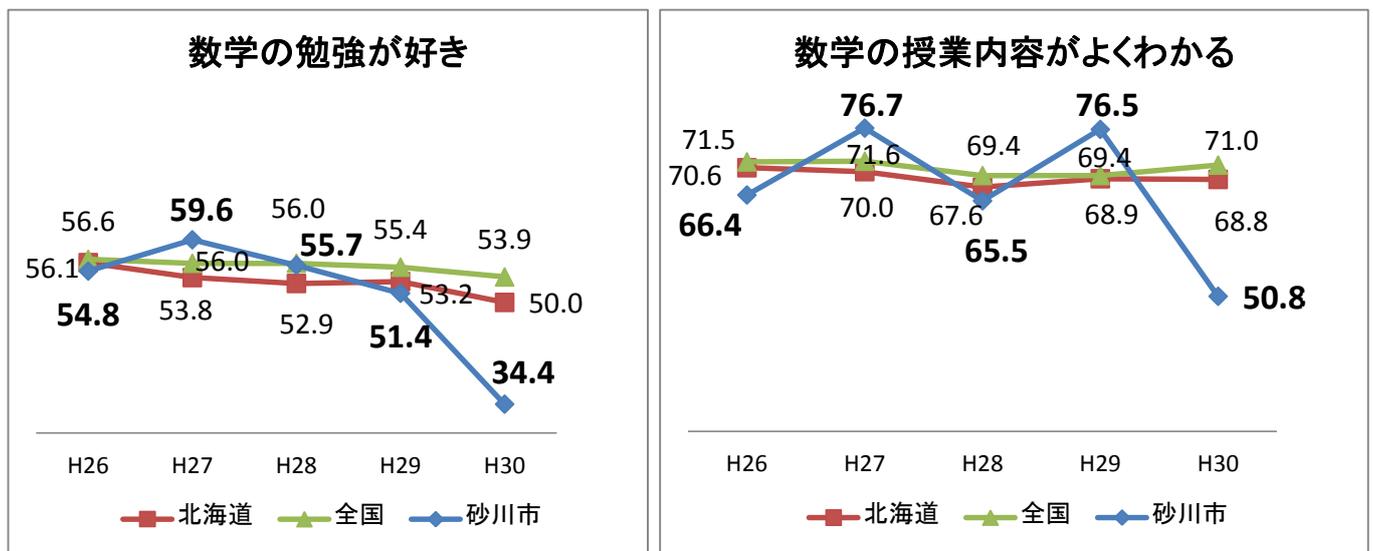
◎ 数学B

	H28			H29			H30		
	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国
割合	39.7%	22.9%	21.3%	27.0%	24.5%	22.5%	34.1%	24.8%	22.8%
正答数	15問中3問以下			15問中4問以下			14問中3問以下		
全国との差	18.4多い			4.5多い			11.3多い		

4 A問題とB問題における正答率と無回答率の差異の状況



5 数学の授業に関する意識(質問紙調査より)



6 分析

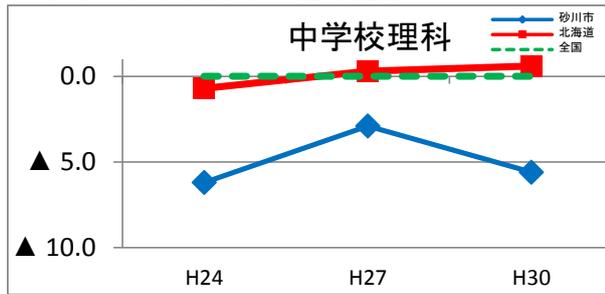
- 数学A、Bともに全国平均を大きく下回り、数学Aは数学Bより全国平均との差が大きくなった。
- 数学Aでは、「簡単な連立2元1次方程式を解く」「絶対値の意味」「確率を求める」「確率の意味」「四角すいの堆積」「指数を含む数の計算」「等式の変形」「三角形の外角」「連立方程式をつくる」「単項式どうしの除法の計算」などの16問で全国平均を10ポイント以上下回った。領域によらず、全体的に正答率が低かった。
- 数学Bでは、「グラフから情報を読み取る」問題で全国平均を20ポイント以上下回り、「事柄が成り立つ理由を説明する」「条件を変えた場合に証明の一部を書き直す」「情報を分類整理し、事象の確率を求める」「付加された条件により新たな事柄を見出す」「証明された事柄を基に新たな性質を見出す」「計算の順番を入れ替えたときの結果を数学的に表現する」問題で全国平均を10ポイント以上下回った。数学A同様に、領域によらず全体的に正答率が低かった。
- 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合が大きく増えている。無回答率も高い。

7 授業改善の視点

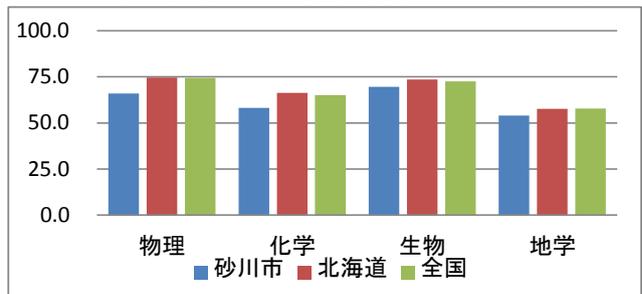
- 基礎・基本の確実な習得と定着を図るため、個に応じた学び直しの指導を取り入れた授業の実践。
- 課題や目標を明確にして見通しをもたせるとともに、振り返りの時間で習熟を図る授業の実践。
- 知識・技能を覚えるだけにとどまらず、それを活用するとともに思考力を高める授業の実践。

中学校理科（学校数：2校 生徒数：129名）

1 平均正答率(全体)の経年推移



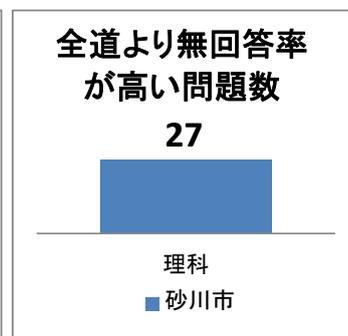
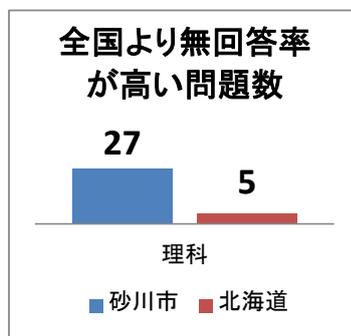
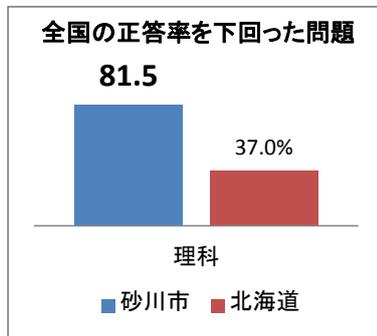
2 平成30年度における領域別平均正答率の状況



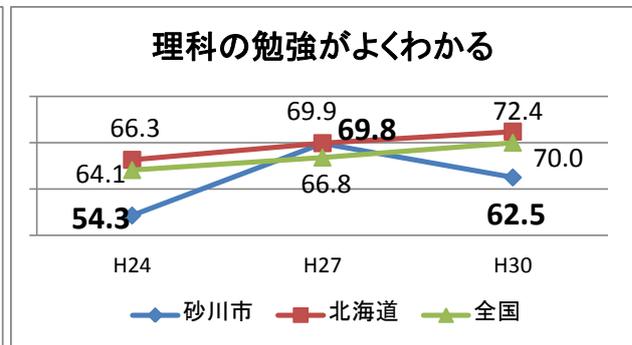
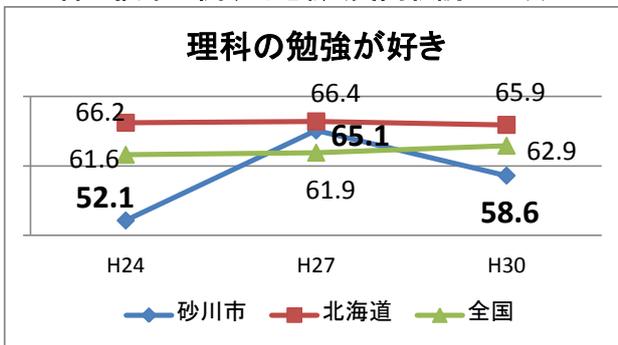
3 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合(努力を要する生徒)の比較

	H24			H27			H30		
	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国
割合	38.1%	27.7%	26.6%	25.9%	23.1%	23.9%	36.0%	24.0%	25.5%
正答数	26問中9問以下			25問中8問以下			27問中14問以下		
全国との差	11.5多い			2.0多い			10.5多い		

4 正答数と無回答率の差異の状況



5 理科の授業に関する意識(質問紙調査より)



6 分析

- 理科は、全国平均を下回った。領域別でも、全ての領域で全国より低い結果となった。
- 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合が大きい。
- 「特定の重量パーセント濃度のものを指摘する」問題では全国平均をやや上回ったが、「オームの法則を使い抵抗を求める」「ガスバーナーの使い方」「実験条件で水の温度変化に関係しているものを指摘する」「化学変化を原子や分子のモデルで説明する」「実験結果の表から値を読み取る」問題で、全国平均を10ポイント以上下回った。

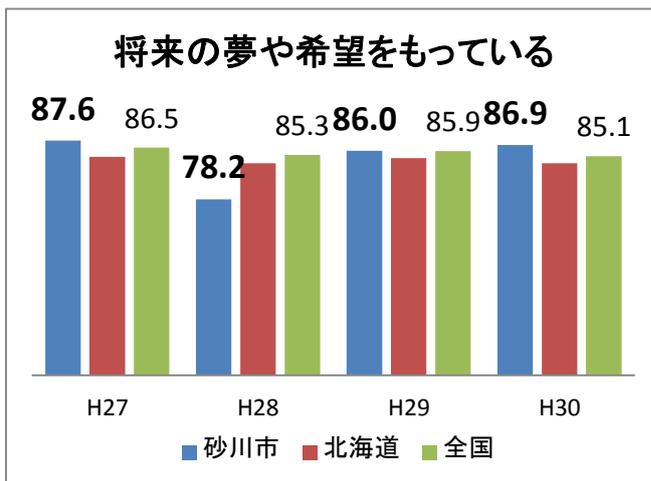
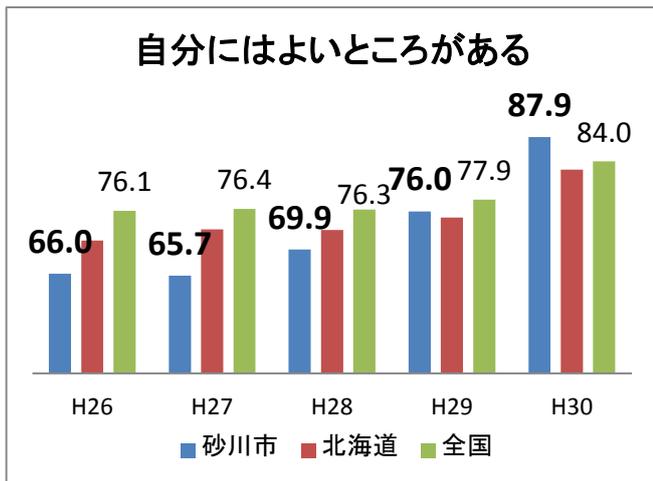
7 授業改善の視点

- 基礎・基本の確実な定着と、観察・実験の結果について考察する学習活動の工夫。
- 理科の「見方や考え方」を働かせながら、知識や技能を習得したり思考・判断・表現する場面の授業を実践。

小学校質問紙調査（学校数：5校 児童数：115名）

※北海道の結果については、グラフ表示のみとし、数値による表記を省略

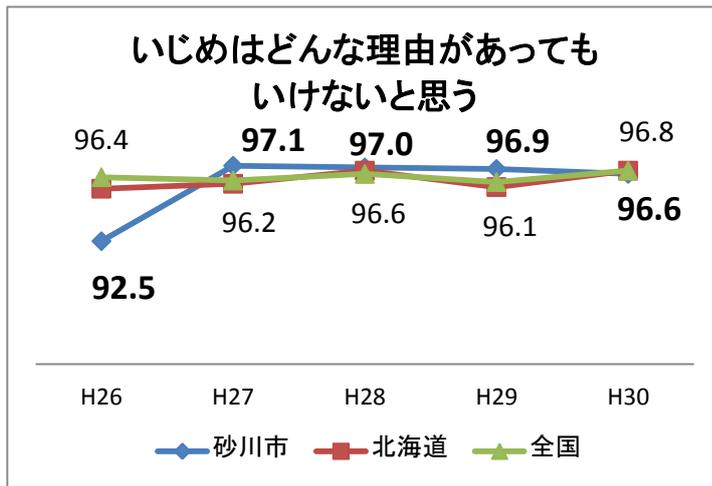
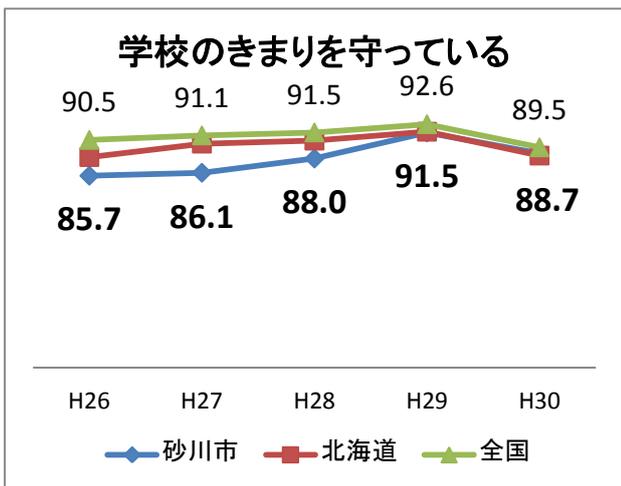
1 自尊感情に関する児童の状況



「自分にはよいところがある」と回答している児童の割合は増加傾向にあり、今年度は全国平均を上回った。9割近い児童が自己肯定感があり、自分に自信を持った前向きな生活につながっていると考えられる。また、「将来に夢や希望をもっている」と回答した児童も全国平均を上回っている。

一方で、自己肯定感が低い、あるいは将来への夢や希望をもたずにいる児童が、少ないながらもいることから、道徳の授業や体験的な活動を通して、自分のよさを見つけたり将来に夢や希望をもたせたりするような教育活動をさらに進めることが大切である。

2 規範意識に関する児童の状況

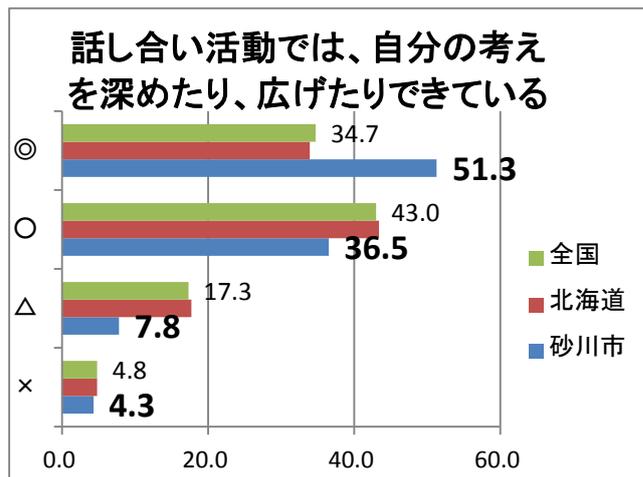
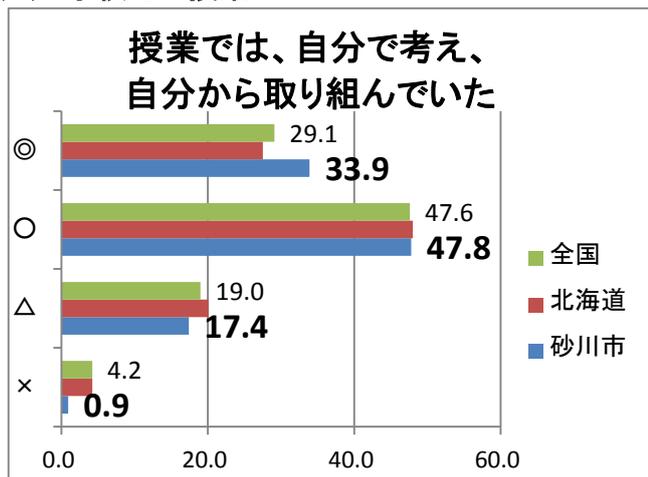


学校のきまりを守っている児童の割合は、年々、全国平均との差は縮まってきてはいるものの、依然として全国・全道の平均を下回っている状況にあり、家庭・地域と連携した規範意識を高めるための具体的な取組を継続していく必要がある。

また、いじめに対する考え方は改善傾向にはあるが、全ての児童がいじめはどんな理由があってもいけない行為であり、お互いに嫌な思いをすることなく生活していけるように、様々な場面を通して引き続き指導していくことが必要である。

3 学習に関する児童の状況

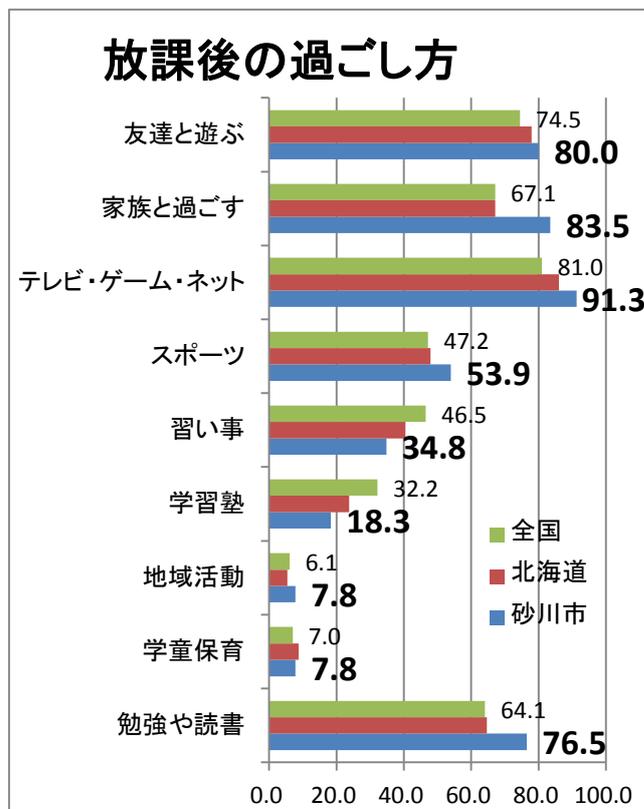
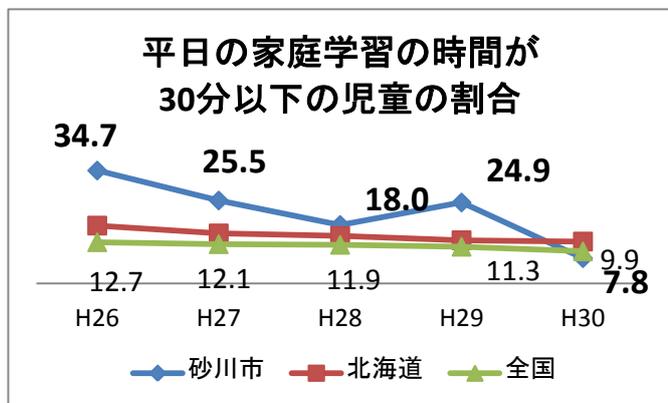
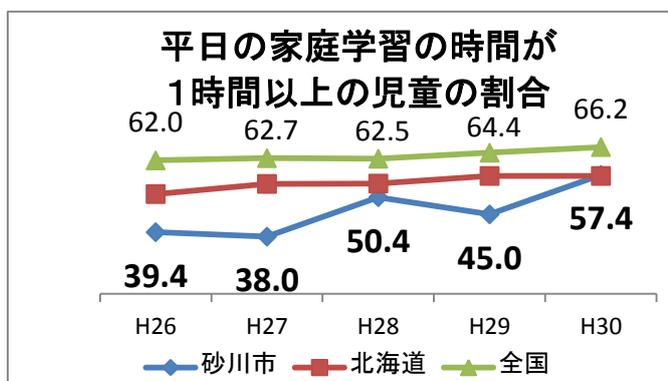
(1) 学校での授業



合わせて約8割の児童が、授業では、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組むと回答しており、授業に主体的に取り組むことができている。さらに、話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできていると回答した児童は9割近くとなっており、対話的な活動の中で、学習内容を深めることができている。

主体的・対話的な深い学びが、高い学習成果につながっていると考えられ、今後も、深い学びにつながる主体的で対話的な授業実践と、それを支える基礎・基本の確実な定着が大切である。

(2) 家庭での学習状況や過ごし方



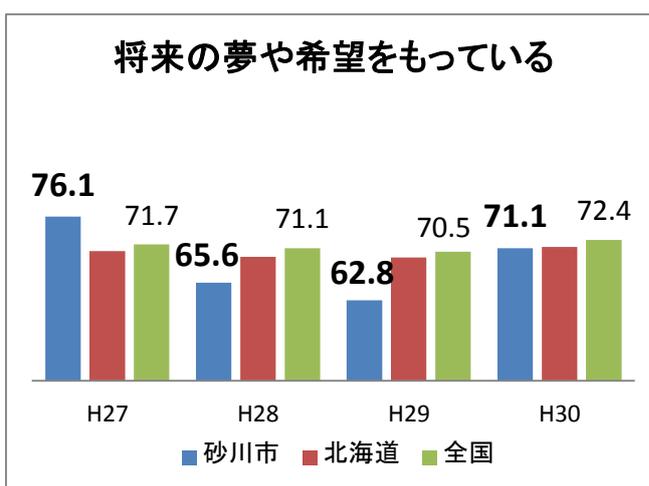
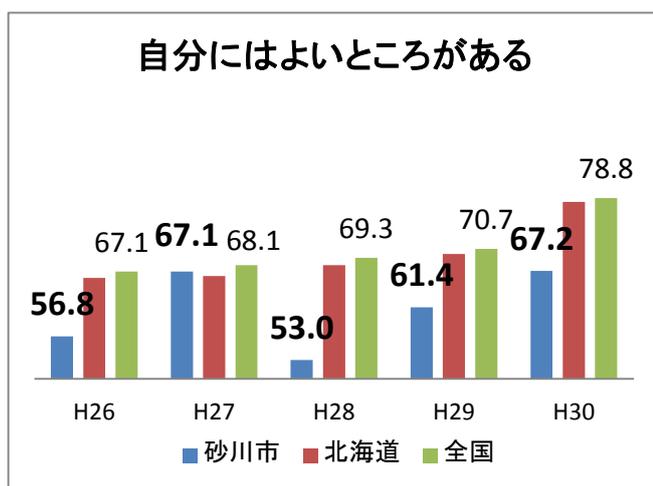
学習時間の質問からは、約6割の児童が1時間以上学習している一方で、学習時間が30分以下の児童も1割近くとなっている。全体としては学習時間が長くなってきており、改善傾向にある。

平日の放課後の過ごし方でも、勉強や読書をするは児童76.5%と全国平均を上回っている。ただ、家でテレビやビデオを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりして過ごしている児童が約9割となっており、こちらも全国平均を上回っていることから、これらの時間と勉強時間とのバランスをよくしていくことが、今後も大切である。

中学校質問紙調査（学校数：2校 生徒数：129名）

※北海道の結果については、グラフ表示のみとし、数値による表記を省略

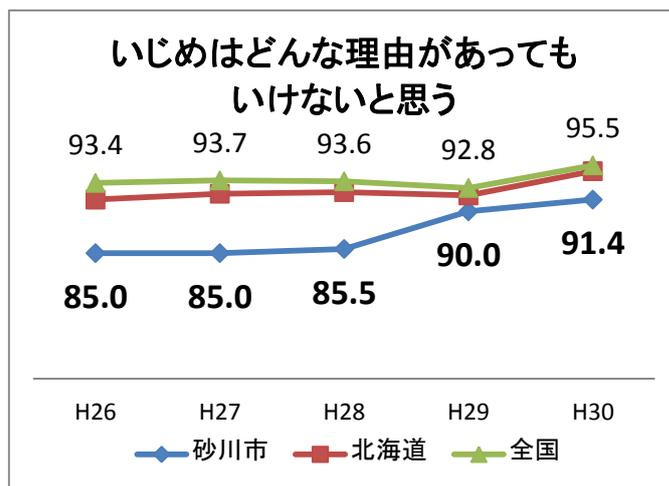
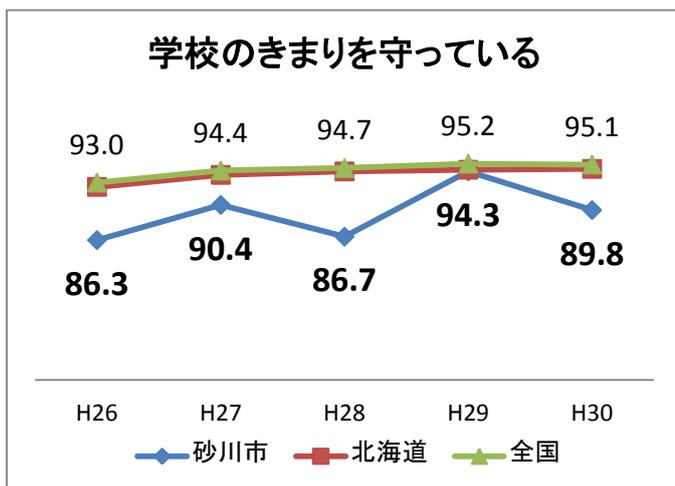
1 自尊感情に関する生徒の状況



「自分にはよいところがある」と回答している生徒の割合は増加傾向にあるが、全国平均より1割近く下回っている。「将来に夢や希望をもっている」と回答した生徒も増加傾向にあり、今年度はほぼ全国平均と同様であった。

一方で、自己肯定感が低い、あるいは将来への夢や希望をもたずにいる生徒が約3割いることから、道徳の授業や体験的な活動を通して、自分のよさを見つけたり将来に夢や希望をもたせたりするような教育活動をさらに進めることが大切である。

2 規範意識に関する生徒の状況

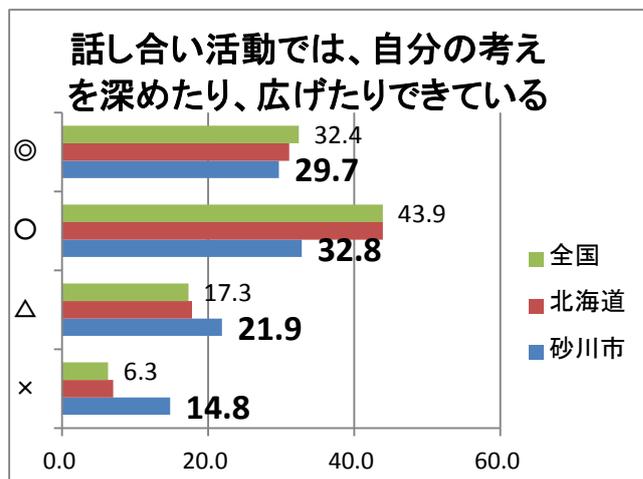
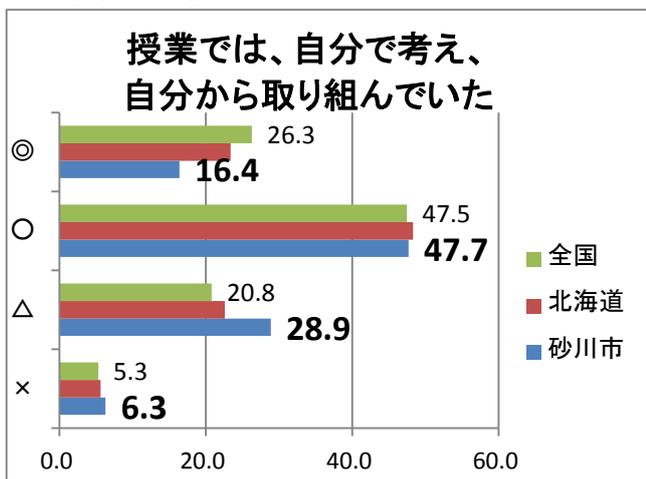


学校のきまりを守っている生徒の割合は、約9割であったが全国・全道の平均を下回っている状況にあり、家庭・地域と連携した規範意識を高めるための具体的な取組を継続していく必要がある。

また、いじめに対する考え方は改善傾向にはあるが、全ての生徒がいじめはどんな理由があってもいけない行為であり、お互いに嫌な思いをすることなく生活していけるように、様々な場面を通して引き続き指導していくことが必要である。

3 学習に関する生徒の状況

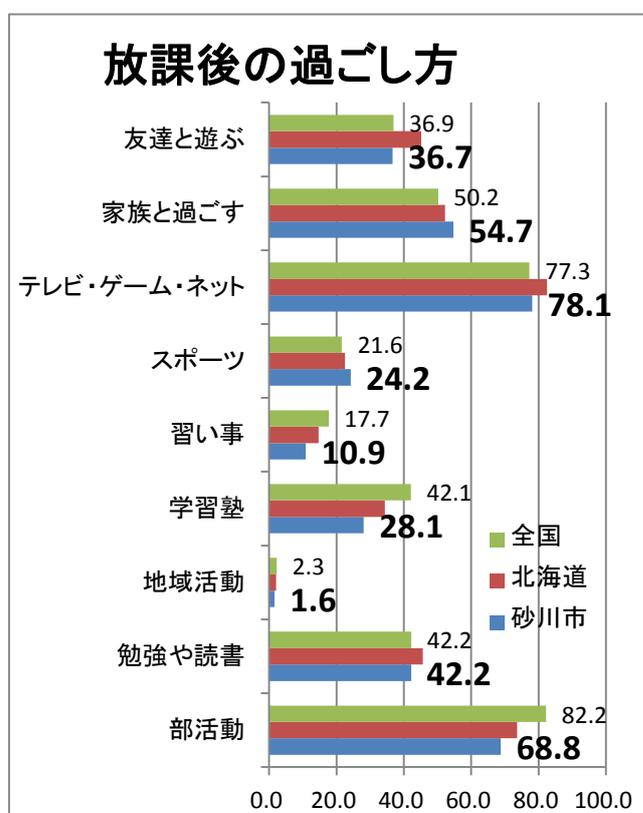
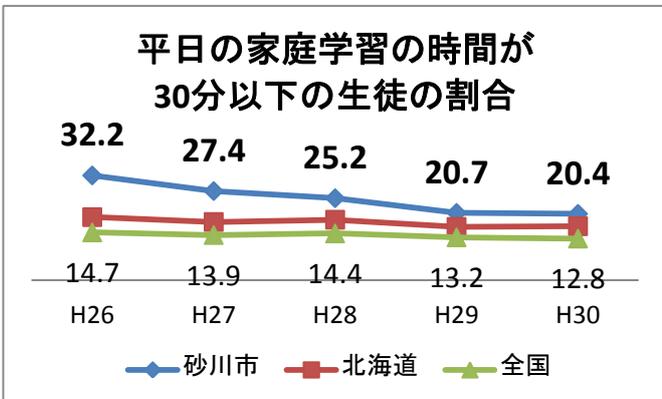
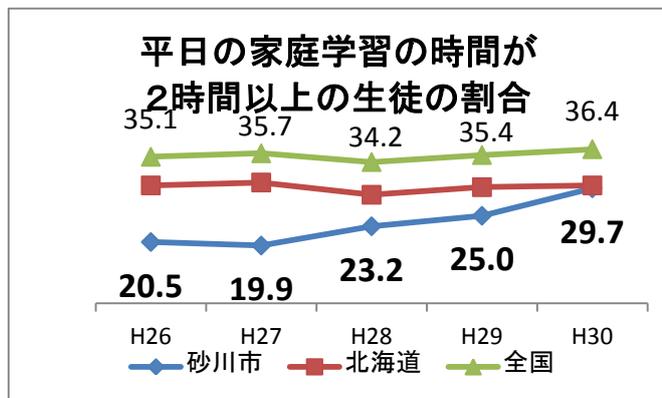
(1) 学校での授業



授業において、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組むと回答している生徒が全国平均より約1割下回っており、主体的に取り組むことができずにいる生徒が約1/3以上いる結果となっている。さらに、話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできていると回答した生徒も全国平均を大きく下回っており、効果的な学習につながっていない様子がうかがえる。

今後も、意欲を持って主体的に学ぶことができるよう、既習事項の確実な定着や「わかる・できる」につながる授業の質的改善と、対話的な学びに必要な思考力・判断力・表現力を育む言語活動の充実が求められる。

(2) 家庭での学習状況や過ごし方



学習時間の質問からは、約3割の生徒が2時間以上学習している一方で、学習時間が30分以下の生徒も約2割いる結果となっている。全体としては改善傾向にあるが、全国平均を下回る状況が続いている。

平日の放課後の過ごし方からは、勉強や読書をする、テレビやビデオを見たり、ゲームやインターネットをしたりして過ごす生徒の割合は全国とほぼ同様となっている。しかし、部活動や学習塾、習い事が全国平均より下回っていることから、テレビやゲーム等の長時間利用が心配される。これらの時間と勉強時間とのバランスをよくしていくことが、今後も大切である。